

## ハッピーハート

## 1. 評価結果概要表

作成日平成19年4月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471501803		
法人名	株式会社 ハートランド		
事業所名	ハッピーハート		
所在地 (電話番号)	広島県福山市高西町三丁目10-21 (電話)084-930-4703		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成19年4月13日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(19年3月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.9

## (2)建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造り 1階建ての 階 ~ 階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	8 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	西福山病院	石井外科整形外科眼科医院	吉岡歯科医院
---------	-------	--------------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

その人らしい生き方を実現、継続してゆけるよう共に生活してゆくことを大切に、日々、私たちに今何ができるかをよく考え、一人ひとりの力を引き出す取り組みをしているホームである。入所者の身体状況も重度化の傾向にあり、食事は宅配を利用しているが、週1回の朝は、利用者自身が好みのパンを選ぶ楽しみと、これらを取り入れられている。看護職による体調の変化の把握、協力医療機関以外からの訪問診療など、医療に関しての対応に安心感があり、また終末期の対応についても、家族に「終末期ケアにおける」問いかけを行い、支援方法について確認し話し合いがされている。市外の利用者が多く、近所との馴染みが少ないので、運営推進会議などで少しずつ地域の理解と支援を得るための活動を続け、地元の人々と交流することに努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 話し合いは定期的に行われているが、今まで意識していなかった事柄やすでにできている課題も現状に満足することなく、より具体的な気づきを出せるように、職員間で話し合い、これからのケアに生かしてもらいたい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが自己評価の結果について再検討を行うことで、意識付けができ、サービスの質の向上に反映されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) まだまだ義務的に流れている傾向もあるようだが、民生委員、包括支援センター、地域住民、家族、利用者とともに2ヶ月に一回会議を開き、これらに関係者に報告等しながら話し合いを行っている。地域の情報を得ることで、少しずつ顔なじみの関係ができ、公民館の道具を借り、敷地内での花見へと交流が広がってきている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 入居者の状態などに変化が見られたときは、速やかに家族に連絡・報告を行うほか、月に1回は「幸心通信」にそれぞれの手紙を添えて報告を行っている。玄関に「意見箱」を設置している。また、家族の訪問時には問いかけるなどして話しやすい雰囲気をつくり、支援に反映できるように努めている。また、運営推進会議で率直な意見をもらえるよう働きかけをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者らよっては、身体状況により、地域行事と一緒に参加することは難しいこともあるが、できるだけ地域の行事(運動会、盆踊りなど)に参加したり、外食に出かけたり、ホーム同士での避難場所としての協力体制など交流に努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症のある利用者には、家族それぞれの想いを受け止め、ホーム独自の理念が掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念をもとに、利用者の生き方の実現に結びつけると共に、また継続を支援し共に生活していくことを目標に掲げ、職員一人ひとり日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の身体状況により、地域行事と一緒に参加することは難しいこともあるが、職員が積極的に地域の行事に参加することによって貢献できるように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価の検討を行い、ホームのあり方などについて再検討され、これからのケアに生かせるよう取り組む意識が生まれている。		定期的な評価をきっかけに、随時気づいたことを職員間で話し合い、入居者・家族にとってよりよい関係がつけられるように努めてほしい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだまだ義務的な処理の流れもあるようだが、民生委員、包括支援センター、地域住民、家族、利用者とともに2ヶ月に一回は会議を開き、報告等を行いなが話し合いをし取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者・家族の間に立つ立場にあり、積極的に市の職員に相談しサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態など多くの変化が見られたときは家族に連絡・報告を行うほか、月に1回は『幸心通信』便りに手紙を添えて報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置しているが、このほか家族の訪問時には問いかけるなどして話しやすい雰囲気をつくり、支援に反映できるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	長年勤務されている職員も多く、新入職員が入社しても、馴染みの職員がフォローしながら継続した支援が行えるように努めている。利用者の担当の職員が交替した場合には、必ず家族に報告している。また、ホームの通信でも紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修には参加できるように取り組み、またこの研修の結果についても報告を行っている。また、職員の年齢も幅広いことや、ユニット間で職員を交代する場合もあり職員間での高めあいが図られている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの日頃のやりとりや、責任者間での交流を行いながら、双方で共有協力できるような関係をつくっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	施設からホーム利用への移行される利用者が多かったのが現状であるが、家庭からの入居利用になる場合は、ホームと家庭の行き来を行いながら徐々に馴染んでいく取り組みが必要と考えられている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	住み慣れた家・家族から離れて暮らす利用者には、これらを支えながら、利用者の思いを汲むことができるよう支援に努め、関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々の利用者の様子を観察しながら、本人の思いがどこにあるのか把握に努め、一人ひとりの暮らし方に繋げるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	利用者とのやりとりや、会話を職員と共有しながら、一人ひとりの介護計画の作成に当たっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的なモニタリング、利用者の変化・要望に応じながら見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内の職員に止まらず、ボランティア・実習生、往診に来られる医師などの協力を得ながら支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前されるまでの主治医との連携の重要性を考慮し、入居後も引き続き受診できるように支援しているとともに、特に主治医との連携を図れるよう努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの入所者には、長年ホームで過ごされている利用者も多く、身体状況に重度化の傾向がある。そのため、職員間でも終末期のあり方についての検討も常にされている。同時に家族にも「終末期ケアにおける」問いかけを行っている。		重度化の課題と同時に、家族の意向を確認しながら支援に努めようとしている取り組みがあった。思いは変化するものであり、希望が実現されるとは限らないということをふまえながら、思いに寄り添った取り組みを今後も続けてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間でも確認しあいながらプライバシーに配慮したケアに努めている。		言葉かけなどは日々のケアや、長い期間築いてきた関係から、見落としがちになる場合もあると思うので、時に振り返ることも必要と思われる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを保ちながら、業務中心とならないように、日々の介護に応じた暮らしとなるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夜は、宅配の食事を利用している。職員と利用者は同じ食事を摂りながら支援し、片付けなども、できる利用者と一緒にしている。		食事の感想・希望を伝えたり、利用者の状態に応じた食事を提供してもらうなど業者と連携をとりながら利用している。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は入浴してもらえるように支援をしている。希望があれば身体状況を確認しながら、可能な限り入浴してもらっている。		利用者の身体・職員体制の状況などを考慮し昼間の入浴支援が行われているが、利用者の希望・状態によっては他の時間でも対応できるよう考えられている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、生活歴などを取り入れたレクリエーションを行ったり、趣味の継続の支援をするなどしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブに出掛けたり、近所を散歩するなどして支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上夜間の施錠以外は、利用者の状態を把握しながら支援しており鍵をかけていない状況である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は火災とならないよう注意をしている。避難訓練等は、利用者を交えたり職員だけで実施する場合もあるが、年に2回の訓練は行っている。		消防署の人の協力を得た訓練や、町内の人達を交えた訓練も行うなどして、防災の意識を高める機会を今以上に確保されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームで採れた野菜を食卓に添えたり、バランスの取れた食事の提供を行いながら摂取の記録がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からの明かりの取り入れや、適度な活動感を感じる自然な音及び会話がホームの中で感じられた。玄関周りには季節によって花を植えたり、外でも寛げるよう椅子が置かれており落ち着いた外観づくりもされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで落ち着いた生活が過ごせるように、これまでに使われていた家財道具を持ち込んでもらうなどして支援が行われている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 ハッピーハート 《心》

所在地 福山市高西町3丁目10-21

記入年月日 19年3月16日

記入者 職 管理者 氏名 黒田 和子

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」為の指針として、理念については、全職員が日々の申し送り等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念について職員間の中で話し合いの機会を持ちながら、意識づけを行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族、地域に対して事業所の果たそうとしていることや、果たしている役割を機会があるごとに説明をしている。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近隣の人達との関係を深めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員の会合の場を通じて、事業所での成果等を伝えている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は全職員で取り組むべきことが明示されていることを理解して、ケアの振り返りや見直しに活かすようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、報告や情報交換以外に、会議のメンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に活かしていくように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域の市町より、認知症介護予防教室などを受託し、また窓口担当者との情報交換も行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者、家族等に成年後見制度などについて、情報提供をしている。		今後共、ミーティング等を通じて、尊厳や礼儀等を意識した対応が、今以上に出来るようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待行為を発見した場合の対応方法については、全職員に周知徹底を図っており、また勉強会やミーティング等を通じて理解浸透の取り組みを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に 行い、また利用者及び家族の立場にたち、将来の ことも含めて疑問等を引き出して説明をして いる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	常日頃から、利用者本人が意見や苦情を出しや すいように働きかけている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる。	家族等の訪問時には声をかけ、利用者の状況や 家族のことについて話し合うようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情への対応で終わるのではなく、苦情の要因 を探り、課題を検討して質の向上をめざすよ うにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を 設け、反映させている。	勉強会での場や、月1回のミーティング等で意 見を聞くようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている。	利用者と職員との馴染みの関係が継続できるよ うな、ローテーションを組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取って、スムーズに移行できるように配慮をしている。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として、研修・会議等への参加の機会を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>日頃より、近隣のグループホームや他の地域のグループホームとの情報交換を行い、サービス提供の指針等に役立てている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日頃から職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景を理解していくようにしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の努力や成果及び現場で起きている状況や変化を知り、向上心を持って働く環境づくりとなるように努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人がおかれている状況を理解し、思いや不安を受け止めて、安心してもらうようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の困っていることや不安なことを本人の意志とは区別して、把握するようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困っていることや不安なことに対しては、できることは直ちに実行し、またできないと思うことでも方策を考えて対応をおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に職員が会いに行ったり、事業所にきてもらい短時間でも過ごすなどして、少しずつ馴染んでもらうようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化について教えてもらう場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは、情報交換を密に行い、家族からの支援などについて求められた時は耳を傾けている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	利用者とのつながりを深めていけるように、事業所での暮らしや介護にも家族が関わっていたりできるような場面や機会づくりを図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで利用者を支えてくれたり、逆に本人が支えてきた人間関係について把握しながら、つながりを継続できるように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	形式的ではなく、情報提供や面談、来所を必要に応じて実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者などから聴き取るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族等による「できないと」という情報にとらわれず、できること・わかる力を本人の生活や全体像から把握するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や関係者の気づきや意見、アイデアを反映しながらの本人本意の計画の作成に努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況・サービス提供とずれていないか検討見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画にそって実践されたか、それでどうなったかの 評価を日常的に記入し、情報の蓄積に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な時には柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なピアノ演奏や話し相手になっていただく、ボランティアへの協力を呼びかけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。 また、ホーム以外の介護サービスや保険医療サービスの情報把握に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に参加していただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意しながら受診の支援を行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の精神科医の往診や受診を必要に応じて実施している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに二名の常勤、準看護師を配置し、日々の地域医療との連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族等とも協働しながら医療機関と三者一体となって退院計画を立案している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応出来るケアについて説明を行っている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を整えるように取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むことになった場合、暮らしやケアの継続が保たれるよう情報提供等には最新の注意をはらいながら行うようにしている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する話を話さないように徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、利用者自身が決定する場面を作っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所の業務のスケジュールに、利用者の生活をあわさない事を基本として支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、また本人の馴染みの理美容院や訪問理美容等で希望にあわせたカットや毛染めをされている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立づくりから調理、片付けに至るまで、利用者の意志や気持を大切にしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるように、他の入居者の迷惑にならないように配慮しながら支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように、お願いできそうな仕事を頼み、また外出や地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と一緒に行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る人に対して、小額を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるよう支援するなど、お金がある安心感や満足感をもっていただくようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くへの散歩だけではなく、買い物やドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族等と相談し、協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人は手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけないで利用を促したり声かけをおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や本人の馴染みの人達が、来たときに自然な形で歓迎している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員は、身体拘束について利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを常日頃から行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出ていく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーが出来ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	業務中は職員が利用者を見守りしやすい位置にいて、利用者の様子を察知できるようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法や取り決めを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を職員で検討している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	夜間等人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係づくりにを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化やサイン、対応について報告するとともに、簡潔に記録し、医療等につなげるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬の内容を把握できるよう、服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、また状況の変化をチェックするために記録等を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	人のひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	事業所内で取り得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具等の清潔や衛生管理方法について、取り決めがあり、職員は実行している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や訪ねる人の視点で、事業所に入りやすい玄関周りや造りとなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって使いやすい配慮や馴染みの物を取り入れた設えにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は、他の人の気配を感じながら、一人で過ごせる居場所づくりの工夫をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入替えや温度調節について、職員は常に意識している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能の変化等に考慮し、利用者の現在の状態に応じて生活環境の完全に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因に対して、速やかに修理や工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りやベランダ等の空間は、利用者の力を活かすための作業や楽しみ場として活用している。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 ハッピーハート 《幸》

所在地 福山市高西町3丁目10-21

記入年月日 19年3月16日

記入者 職 管理者 氏名 本谷秀幸

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の中でその人らしく生活することを支えていく」為の指針として、理念については、全職員が日々の申し送り等の機会を通じて、確認等を行い取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念について職員間の中で話し合いの機会を持ちながら、意識づけを行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族、地域に対して事業所の果たそうとしていることや、果たしている役割を機会があるごとに説明をしている。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日頃の挨拶はもちろん、散歩や買い物に出かけ、近隣の人達との関係を深めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として、町内会に加入し、行事等には利用者とともに積極的に参加している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の民生委員の会合の場を通じて、事業所での成果等を伝えている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は全職員で取り組むべきことが明示されていることを理解して、ケアの振り返りや見直しに活かすようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、報告や情報交換以外に、会議のメンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に活かしていくように取り組んでいる。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域の市町より、認知症介護予防教室などを受託し、また窓口担当者との情報交換も行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用者、家族等に成年後見制度などについて、情報提供をしている。		今後共、ミーティング等を通じて、尊厳や礼儀等を意識した対応が、今以上に出来るようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待行為を発見した場合の対応方法については、全職員に周知徹底を図っており、また勉強会やミーティング等を通じて理解浸透の取り組みを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書・重要事項説明書により丁寧に 行い、また利用者及び家族の立場にたち、将来の ことも含めて疑問等を引き出して説明をして いる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	常日頃から、利用者本人が意見や苦情を出しや すいように働きかけている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる。	家族等の訪問時には声をかけ、利用者の状況や 家族のことについて話し合うようにしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情への対応で終わるのではなく、苦情の要因 を探り、課題を検討して質の向上をめざすよ うにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を 設け、反映させている。	勉強会での場や、月1回のミーティング等で意 見を聞くようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている。	利用者と職員との馴染みの関係が継続できるよ うな、ローテーションを組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取って、スムーズに移行できるように配慮をしている。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として、研修・会議等への参加の機会を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>日頃より、近隣のグループホームや他の地域のグループホームとの情報交換を行い、サービス提供の指針等に役立てている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日頃から職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景を理解していくようにしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>管理者は、職員の努力や成果及び現場で起きている状況や変化を知り、向上心を持って働く環境づくりとなるように努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>本人がおかれている状況を理解し、思いや不安を受け止めて、安心してもらうようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の困っていることや不安なことを本人の意志とは区別して、把握するようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	困っていることや不安なことに対しては、できることは直ちに実行し、またできないと思うことでも方策を考えて対応をおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならなかに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に職員が会いに行ったり、事業所にきてもらい短時間でも過ごすなどして、少しずつ馴染んでもらうようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者から、生活の技や生活文化について教えてもらう場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは、情報交換を密に行い、家族からの支援などについて求められた時は耳を傾けている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	利用者とのつながりを深めていけるように、事業所での暮らしや介護にも家族が関わっていたりできるような場面や機会づくりを図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで利用者を支えてくれたり、逆に本人が支えてきた人間関係について把握しながら、つながりを継続できるように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報連携し、全ての職員が共有できるようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	形式的ではなく、情報提供や面談、来所を必要に応じて実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用時に、自宅に訪問したり、ご本人やご家族、関係者などから聴き取るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族等による「できない」という情報にとらわれず、できること・わかる力を本人の生活や全体像から把握するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族や関係者の気づきや意見、アイデアを反映しながらの本人本意の計画の作成に努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画と照らし合わせて、現時点の利用者や家族の状況・サービス提供とずれていないか検討見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画にそって実践されたか、それでどうなったかの評価を日常的に記入し、情報の蓄積に活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な時には柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的なピアノ演奏や話し相手になっていただく、ボランティアへの協力を呼びかけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。 また、ホーム以外の介護サービスや保険医療サービスの情報把握に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に参加していただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意しながら受診の支援を行っている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域の精神科医の往診や受診を必要に応じて実施している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに二名の常勤、準看護師を配置し、日々の地域医療との連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族等とも協働しながら医療機関と三者一体となって退院計画を立案している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応出来るケアについて説明を行っている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を整えるように取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>移り住むことになった場合、暮らしやケアの継続が保たれるよう情報提供等には最新の注意をはらいながら行うようにしている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>他の家族や外来者に対して、職員が本人のプライバシーに関する話を話さないように徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で一人ひとりの力に合わせて、利用者自身が決定する場面を作っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所の業務のスケジュールに、利用者の生活をあわさない事を基本として支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、また本人の馴染みの理美容院や訪問理美容等で希望にあわせたカットや毛染めをされている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立づくりから調理、片付けに至るまで、利用者の意志や気持を大切にしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者が自宅と同様に、馴染みの嗜好品を楽しめるように、他の入居者の迷惑にならないように配慮しながら支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように、お願いできそうな仕事を頼み、また外出や地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と一緒に行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来る人に対して、小額を所持してもらったり、買い物に行く時は本人が支払えるよう支援するなど、お金がある安心感や満足感をもっていただくようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くへの散歩だけではなく、買い物やドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族等と相談し、協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人は手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけないで利用を促したり声かけをおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や本人の馴染みの人達が、来たときに自然な形で歓迎している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全職員は、身体拘束について利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを常日頃から行っている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>出ていく気配を職員が見落とさない見守りや連携プレーが出来ている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>業務中は職員が利用者を見守りしやすい位置にいて、利用者の様子を察知できるようにしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法や取り決めを行っている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>現在の利用者の状況に応じて、想定される事故を職員で検討している。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>夜間等人手が少ない時の応急手当から、その後の連絡、対応方法についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っており、消火器や避難路の確保等の点検も行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等と普段からの関係づくりにを基盤に、一人ひとりに予測されるリスクを率直に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化やサイン、対応について報告するとともに、簡潔に記録し、医療等につなげるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬の内容を把握できるよう、服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、また状況の変化をチェックするために記録等を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	人のひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	事業所内で取り得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、調理用具等の清潔や衛生管理方法について、取り決めがあり、職員は実行している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や訪ねる人の視点で、事業所に入りやすい玄関周りや造りとなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって使いやすい配慮や馴染みの物を取り入れた設えにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は、他の人の気配を感じながら、一人で過ごせる居場所づくりの工夫をしている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に自宅で使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気入れ替えや温度調節について、職員は常に意識している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体機能の変化等に考慮し、利用者の現在の状態に応じて生活環境の完全に取り組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの混乱を招くような環境の原因に対して、速やかに修理や工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りやベランダ等の空間は、利用者の力を活かすための作業や楽しみ場として活用している。		